

## 市内中小企業景況調査結果（平成31年4月～令和元年6月）

### 動き鈍いまま、来期も低位で推移するものと予想

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第1四半期（平成31年4月～令和元年6月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

令和元年5月15日

- 調査対象時期

平成31年4月～令和元年6月期状況、令和元年7～9期見通し

- 調査回答企業数

41社：建設業7社、製造業5社、卸売業8社、小売業9社、サービス業12社（回収率82%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

#### 【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（31年1～3月期）では業種によりバラツキがあり小幅の悪化となっていたが、今期（31年4～1年6月期）の全産業合計の業況D I（前年同期比）では好転しているもののほぼ横這いでの推移となっている。

先行きについては、小幅ながら悪化するものの引き続きほぼ横ばいで推移するものと予想している。業種別にみると、小売業では好転するものの、製造業や卸売業では横這いで推移するものと予想している。

- 今期（平成31年4月～令和元年6月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（31年1～3月期）と比較して1.8ポイントと小幅ながら上昇したものの、D Iでは $\Delta 22.0$ とマイナス域での推移が続いている。

業種別の業況をみると、建設業では14.3ポイント上昇し、D Iでも $\pm 0.0$ となっている。卸売業でも12.5ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 37.5$ とマイナス域での推移が続いている。サービス業では9.1ポイント低下しているものの、D Iでは $\pm 0.0$ にとどまっている。小売業では3.3ポイントと小幅ながら低下しD Iでは $\Delta 33.3$ となっている。製造業では10.0ポイント低下し、D Iでは $\Delta 60.0$ の悪化超となっている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると前期（31年1～3月期）と比較して14.1ポイント上昇し、D Iでも△7.3となっている。

業種別にみると、建設業では57.2ポイントと大幅に上昇し、D Iでも+28.6とプラス域に転じている。サービス業では6.8ポイント上昇し、D Iでも25.0とプラス域で推移している。卸売業では12.5ポイント上昇しているものの、D Iでは△25.0にとどまっている。小売業では2.2ポイントと僅かながら低下し、D Iでは△22.2と横ばいで推移している。製造業では13.3ポイント低下し、D Iでは△80.0と大幅な悪化超となっている。

## 〔採 算〕

全産業で見ると前期（31年1～3月期）と比較して変化なく、D Iでは△29.3と悪化のまま推移している。

業種別にみると、建設業では28.5ポイント上昇したものの、D Iでは△28.6にとどまっている。製造業でも10.0ポイント上昇し、D Iでは△40.0にとどまっている。サービス業では9.1ポイント低下しているものの、D Iでは±0.0となっている。卸売業は7.1、小売業では14.3ポイント低下し、D Iでは夫々△50.0、△44.4となり悪化超が続いている。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（31年1～3月期）と比較して、0.7ポイントと僅かながら低下し、D Iでは△15.0と横ばいで推移している。

業種別にみると、サービス業では7.6ポイント上昇し、D Iでは16.7と引き続きプラス域で推移している。建設業では変化なく、D Iでは△14.3にとどまっている。小売業では3.3ポイント低下し、D Iでは△33.3と悪化のまま横這いとなっている。卸売業では16.1ポイント低下し、D Iでは△28.6、製造業では6.7ポイント低下し、D Iでは△40.0となっている。 1

## ●来期(元年7～9月期)の見通し(前年同期比)

全産業合計の業況D Iは今期（元年4～6月期）と比較して3.0ポイントと小幅ながら低下するものの、D Iでは△25.0と引き続きマイナス域で横ばいが続くものとみている。

業種別にみると、小売業では11.1ポイント上昇するものの、D Iでは△22.2にとどまるものとみている。製造業と卸売業ではともに変化ないものの、D Iでは夫々△60.0、△37.5となる見込み。建設業とサービス業では、夫々16.7、8.3ポイント低下し、今期の±0.0からマイナス域に入る見込み。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、今期（元年4～6月期）と比較して9.8ポイント低下し、D Iでは△17.1と再び悪化するものとみている。

業種別にみると、卸売業では12.5ポイント上昇し、D Iでは△12.5となる見通し。小売業でも11.1ポイント上昇し、D Iでは△11.1となる見通し。製造業では変化ないものの、D Iでは引き続き△80.0と悪化超のまま推移するものとみている。サービス業では25.0ポイント低下するものの、D Iでは±0.0にとどまるものとみている。建設業では42.9ポイントと大幅に低下し、D Iでは△14.3とマイナス域に転じるものとみている。で

## 〔採 算〕

全産業で見ると、今期（元年4～6月期）と比較して2.4ポイントと僅かながら低下し、D Iでは△31.7とマイナス域で推移する見通し。

業種別にみると、卸売業では25.0ポイント上昇するものの、D Iでは△25.0にとどまる見込み。建設業と小売業では変化なく、D Iでは夫々△28.6、△44.4のまま推移。サービス業では16.7ポイント低下し、D Iでは△16.7とマイナス域となる見込み。製造業では20.0ポイント低下し、D Iでも△60.0と悪化超となる見込み。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期（元年4～6月期）と比較して7.5ポイント低下し、D Iでは△22.5とマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、卸売業では14.3ポイント上昇するものの、D Iでは△14.3にとどまるものとみている。製造業と小売業では変化ないものの、D Iでは夫々△40.0、△33.3と悪化超のまま推移する見込み。建設業では14.3ポイント低下し、D Iでは△28.6となる見込み。サービス業では25.0ポイント低下し、D Iでは△8.3とマイナス域に転じるものとみている。

## ●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期（元年4～6月期）は14.6%の実績となり、前期（31年1～3月期：23.8%）と比較すると沈静化しており、前年同期（30年4～6月期：23.3%）と比較しても沈静化している。業種別で見ると、建設業では比較的活発に行われたが、卸売業や小売業では沈静化している。来期については全体で24.4%と今期と比較して活発化するものとみている。

## ●経営上の問題点

建設業では、前回3位の「材料価格の上昇」が1位となり、前回に引き続き「従業員の確保難」が2位となっている。前回1位の「熟練技術者の確保難」は圏外となっている。製造業では、前回と同様に「需要の停滞」が1位となり、2位も前回と同様「原材料価格の上昇」となり、前回同じく2位の「製品ニーズへの変化への対応」が3位に入っている。卸売業では、前回1位の「需要の停滞」と前回2位の「仕入単価の上昇」は変わらず、3位には「大企業の進出による競争の激化」などが入っている。小売業では、前回2位の「購買力の他地域への流出」が1位となり2位には前回1位の「消費者ニーズの変化への対応」となっている。サービス業では圏外から「需要の停滞」が1位となり、前回1位の「熟練従業員の確保難」と「従業員の確保難」が2位となっている。

## 業 種 別 D I 値 表 令 和 元 年 4 ～ 6 月 期

	回答企業数	業 況			売 上			採 算			資金繰り			採算(今期経常利益)
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
全産業	41	△23.8	△22.0	△25.0	△21.4	△7.3	△17.1	△29.3	△29.3	△31.7	△14.3	△15.0	△22.5	△12.2
建設業	7	△14.3	0.0	△16.7	△28.6	28.6	△14.3	△57.1	△28.6	△28.6	△14.3	△14.3	△28.6	14.3
製造業	5	△50.0	△60.0	△60.0	△66.7	△80.0	△80.0	△50.0	△40.0	△60.0	△33.3	△40.0	△40.0	△60.0
卸売業	8	△50.0	△37.5	△37.5	△37.5	△25.0	△12.5	△42.9	△50.0	△25.0	△12.5	△28.6	△14.3	0.0
小売業	9	△30.0	△33.3	△22.2	△20.0	△22.2	△11.1	△30.0	△44.4	△44.4	△30.0	△33.3	△33.3	△44.4
サービス業	12	9.1	0.0	△8.3	18.2	25.0	0.0	9.1	0.0	△16.7	9.1	16.7	△8.3	8.3

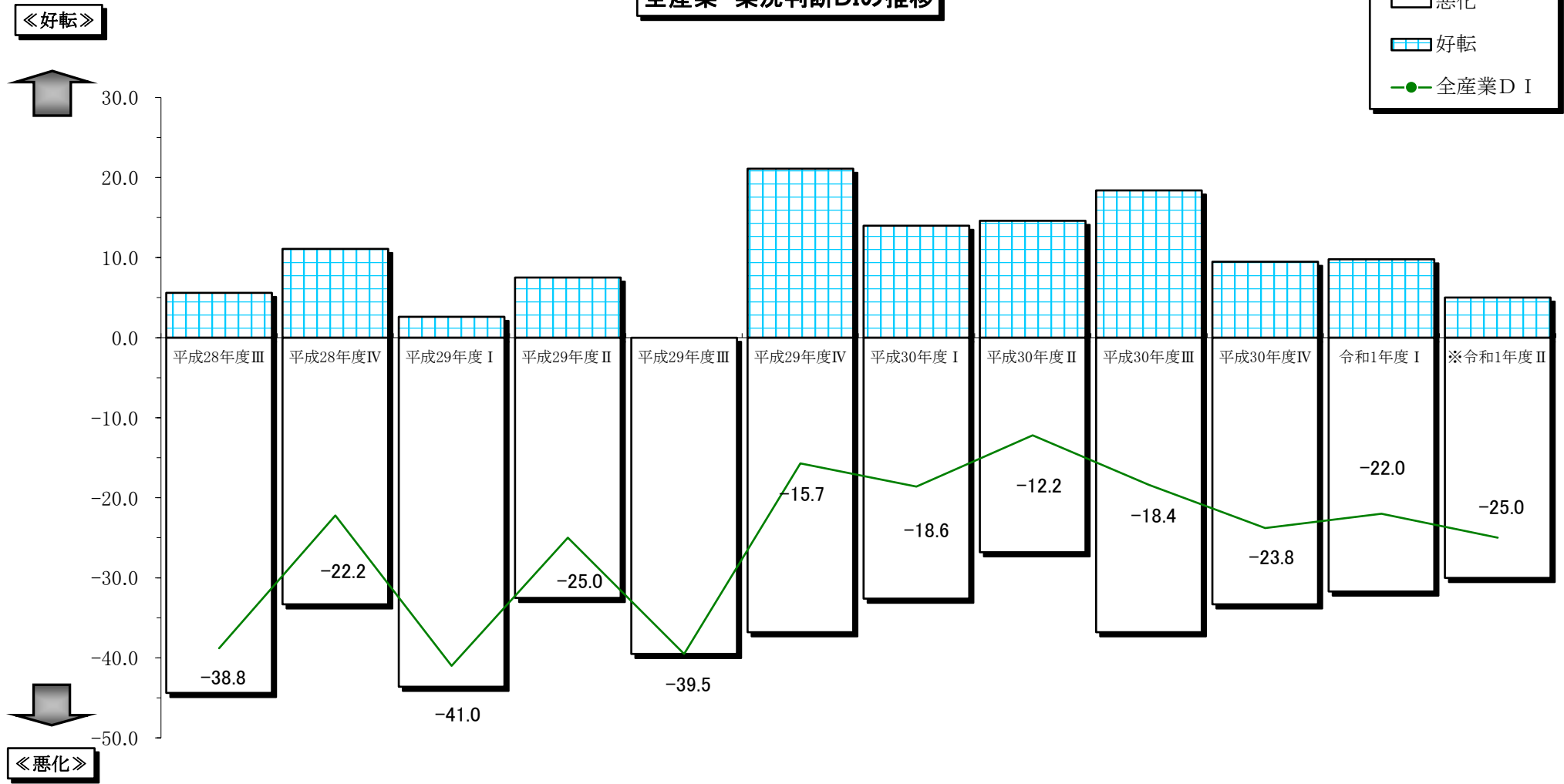
- ① 前年同期(平成30年1月～3月)と比較した前期(平成31年1月～3月)の状況  
 ② 前年同期(平成30年4月～6月)と比較した今期(令和元年4月～6月)の状況  
 ③ 前年同期(平成30年7月～9月)と比較した来期(令和元年7月～9月)の見通し

### 直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建設業	材料価格の上昇	下請単価の上昇／従業員の確保難	材料の入手難／下請業者の確保難／民間需要の停滞／若手技術者の確保難
製造業	需要の停滞	原材料価格の上昇	製品ニーズの変化への対応
卸売業	需要の停滞	仕入単価の上昇	大企業の進出による競争の激化／新規参入業者の増加／メーカーの進出による競争の激化
小売業	購買力の他地域への流出	消費者ニーズの変化への対応	大型店・中型店の進出による競争の激化／需要の停滞
サービス業	需要の停滞	従業員の確保難／熟練従業員の確保難	人件費の増加／材料等仕入単価の上昇

設備投資を今期実施した                      14.6 %  
 設備投資を来期計画している                24.4 %

# 全産業 業況判断DIの推移



## 【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成30年7～9月）と比較した来期（令和元年7～9月）の見通し